

令和6年度 第3回 浜松市立高等学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月17日（月） 14時00分から15時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立高等学校 応接室
- 3 出席委員 須賀淳子委員、杉浦友治委員、金田知久委員、林左和子委員、増田治晃委員、富室俊和委員
- 4 学 校 草谷（校長）、河田（副校長）、若井（教頭）、河島（事務長）
小野田（浜松市教委）、飯田（教務課長）、蔵原（生徒課長）、水野（進路課長）
羽切（総務課長）、曾布川（保健環境課長）、岡本（図書課長）
佐藤き（研修課長）、矢頭（情報化推進課長）、野中（1学年主任）
鈴木彰（2学年主任）、池谷則（3学年主任）

5 傍聴者 なし

6 会議記録

(1) 校長挨拶

- ・本年度は学校評議員制度から一步すすめた学校運営協議会、本校の教育活動に関して、評価と御意見をいただく貴重な機会である。
- ・高校入試が始まる。中学生から、本校は高い評価をいただいている。本校の魅力を発信し、地域にとっても在校生にとっても良い学校づくりを目指したい。
- ・校長通信について、前回、本校の生徒に身につけさせたい力について委員から建設的なご意見をいただいた。校内でも共有した。

(2) 学校の近況報告

ア 教務課より

今年度で新教育課程が完成し、観点別評価も定着した。引き続き適切な評価を探っていきたい。現行の教育課程の課題として、情報が共通テストに導入されたが、その対応を模索中である。また、文Ⅰコースが2年次から数学を履修しなくてよいため、文Ⅱコースの数学の履修の順序について他校と違いがある。より良い形を検討していきたい。1人1台端末の活用が定着した。教員もかなり授業で取り入れている。研修も重ねてきたが、まだ道半ばであるので、来年度以降も探っていきたい。

自動採点ソフトが本格導入された。教科によっては、業務の時間が半分になっており、今後も効率化を推し進めていきたい。

イ 生徒課より

全国大会出場が9部活（延べ233名）あり、その他、ほぼすべての部活で県大会等に進出した。文化部も非常によく頑張って結果を出しており、全般、文武両道で充実した活動を行っている

交通関係では、本年度は、15件（3件加害、12件被害）の事故があった。昨年度は17件だったのでやや減少した。大事故はなかったが、交通マナーの部分では地域の方

からご指摘受けている。自分事として交通マナーもしっかり考えさせたい。登校中、渋滞した車とのすれ違いで接触してしまう事故が目立っている。日頃から生徒の様子をしっかり見て落ち着いた学校生活を送らせたい。

ウ 進路課より

進路結果について、共通テストを課さない推薦は例年通り。その一方で、共通テストを課す推薦については全国の平均点が上昇した分、厳しい結果になった。年内入試が世間で話題になっているが、本校はあまりそのような流れにはなっていない。現在、21名国公立合格（昨年25名）である。今現在も国公立の二次試験目指して、毎日のように登校して指導を受けている。個別指導の人数も増えてきており、学校体制でサポートを行っている。

(3) 研究協議

ア 保護者による学校評価

おおむね高評価であるが、「学校は教育方針をわかりやすく伝えている(74.1%)」「お子様は家庭学習をしっかり行っている(79.9%)」「校則は適切に定められている(80.3%)」の3点が保護者アンケートでは比較的やや低めであった。

イ 生徒による学校評価

おおむね高評価であるが、「学校行事が充実している(87.3%)」「学校施設が充実している(77.7%)」がやや低めであった。

ウ 学校関係者評価

- ・6名の委員から以下の外部評価をいただいた。
今年度の取組（スクールポリシー）について⇒B
具現化の柱アについて⇒A、A、A、A
具現化の柱イについて⇒A、B、C、A、A
具現化の柱ウについて⇒A、B、A
具現化の柱エについて⇒A、B
具現化の柱オについて⇒A、A、B、A
具現化の柱カについて⇒B、A、A、A、A、B

(4) 意見交換（司会：須賀委員長）

- ・保護者アンケートの「学校は方針を伝えている」が低調であるところが気になる。学校の方針が伝わっていない保護者が増えているかもしれない。難しい時代になっているが、学校として何かわかりやすい言葉や方法で伝えていければいいと思う。（増田委員）
- ・グローバル人材の育成が求められている。子どもたちにとっては、海外の価値観の違う人たちと話をすることから始められたらよりよいと思われる。（富室委員）

- ・全般、非常によくやってくださっている。進路ダイアリーに担任の先生がコメントを書くのは大変だが、ありがたい。グローバル人材の育成についてエンパワーメントプログラムの代案を考えてもらおうとよい。抽象的になりがちだが、評価は改善のためにあるので、Cのところをどうするかを示していないといけない。一人一台端末は率先して活用していただきありがたい。具現化の柱「カ」の下から二番目にある授業以外のPC活用について、子供たちは活用できると思うので、授業での資料提示以外のところで、ICTをどのように活用するかも考えていってほしい。投影だけで授業が終わらないように、さらにより良い授業を目指して研修をしてほしい。中教審でもデジタル教科書が言われている。高校もその域まで検討していく時代がきているのではないかと。「学校の方針をわかりやすく」については、難しい課題だが、どの学校でも同じように見えてしまうグランドデザインだともったいない。浜松市立独自という点をもっと全面に出してほしい。(金田委員)
- ・市立の生徒はとても素直で、朝に家の近くで立っているとみんな声をかけてくれる。非常に励まされる。毎日こんなに子供たちが挨拶してくれるのは楽しい。素晴らしい学校で先生の指導がいい。(杉浦委員)
- ・取組がとてもよいが、あまりにも盛りだくさんで教員は大丈夫かと思う。各所に研修を続けるとあるが、研修はただ聞くだけでなく、そこから授業計画を組んでいくことになるのかなりハードである。全ての項目をAにするように取り組むのは非常に苦しいのではないかと。働き方改革に対して逆行するような教員の負担が増えるような経営計画は苦しいと思われる。補習や土曜補習も行い、授業も改善してとなると大変である。どこか業務改善、バランスをとったほうがよいのではないかと。実施している内容は素晴らしいのだが、負担を考えたほうがよいかもしれない。図書館の蔵書について「充実している」の回答が、生徒の24%が「分からない」と答えているが、これはどのような理由からか？(林委員)
- ⇒図書課長：「判断基準がないため」かもしれない。比較の対象がないのかもしれない。実際は予算もたくさんつけてもらっている。
- ・テストの自動採点について、どのような仕組みなのか？
- ⇒教務課長：問題は教員が作成するが、採点はAIが数字や記号を読み取ってくれる。一枚一枚めくっていく時代よりはPC上で○×がつけられるので速い。
- 働き方改革の中、高い目標に向けて非常によくやってくださっている。在校生の活躍を同窓生は見守っており、誇りに感じている。生徒指導に苦慮する生徒もおらず、それぞれの生徒が自分の目標に向けて飛び立ってくれる。卒業してから市立でよかったなと感じてくれているのではないかと。先生方本当によくしてくれたなと卒業生は思っているのではないかと。(須賀委員長)

(5) その他

- ・来年度の予定